

糞公務員脱出レポート

こんにちは！ひろきんと申します！

このレポートでは僕がいかにして公務員を辞めて月収100万以上を30歳子供3人いるという状態で手に入れることができたのかを記していこうと思います。

僕は元警察官。

妻は公務員看護師。

子供3人。

起業する前は世帯年収1000万

(起業してからはアホみたいに働かずに年収2000万)

世間的に見たら勝組かもしれませんが、僕はこの生活が本当に嫌でした。てか仕事が、公務員の仕事が心底嫌でした。

普通この状況なら別に普通に生活していたらそれなりの生活を送れたのかもしれませんが、「それなり止まり」です。

たった一度の人生、それなり止まりでは嫌だったんです。

自分の人生の半分以上を、大っ嫌いな仕事に費やすなんてことは許せませんでした。

お金云々以前に。

だから僕は毎日24時間を誰に命令されることもなく自由に過ごしたいと日々日々思っていました。

そんな日々ももうとうとう――に昔のことです。

もう今は最高です。ほんと最高。

実はいっつも安定していない公務員から脱出するまでの過程や、その時考えていたことを書きました。

いろいろ恥ずかしいことも書いていますので、読まれるのはめっちゃんこ恥ずかしいですが、読んでもらえると嬉しいです。

それではこれから始まり。

成功している人は、幼少期にとっても貧乏な人が多く、反骨精神で成り上がったと聞く事が多い。

そんな人たちに対し、僕も貧乏でありたかったと分けわからん嫉妬を感じていた。

わざと財布を落としてやろうか。

ただのアホか。

1986年僕は4人兄弟の次男として大阪に生まれた。

父は警察官、母は専業主婦で極々普通の、貧乏でもない、金持ちでもない家庭で育った

そう、平凡な家庭に育った僕には、不幸なことに不幸なことがなかった。

生まれた当時はとてつもなく真珠のようにきれいな丸い頭だったようだが、兄姉がいたためほったらかしにされ、小学校に入る頃には絶壁オリンピックがあれば入賞するレベルの絶壁になっていた。

ただ兄弟が多く、すべてが4となっていたため、家庭内競争が鬼激しく、テレビチャンネルの争奪戦や命がけのプリンとの戦い、大阪かき氷のミルク多いの欲しいの乱など、いつも戦争だった。

僕は体が小さく、いつも兄や姉との合戦に負けたことで勝負事が怖くなり、いつしか競争を避けるようになり平和と平等を愛する子供となっていた。

すぐになんでも行動しなければ何もかも取られてしまうため、行動力と足の速さがクソ早くなったのは言うまでもない。

ちなみに小6で50メートル7,70秒だったのは今でも忘れない。ん

しかし、僕より早い「西ちゃん」の存在は僕を震え上がらせていたのはここだけのお話。ついでに西ちゃんはロマンシングサガというテレビゲームにアホほど精通しているのはどうでもいい話である。また、西ちゃんは勉強の方はあまりできなかった。もう西ちゃんの話は止めよう。

話を戻そう。

今でもラブアンドピースは変わっておらず、争いごとは好きではない。

そしてそれは徐々に進化してラフアンドピースに変わっていくことになる。

僕は小学生になって大阪特有の「笑い」に出会い、ここで僕の人生の指針とも言える笑いの考え方や思想を学び、人格が形成されていくことになる。

当時、大阪に住んでいる子供は、日曜日にやっていた吉本新喜劇というテレビを見るのがデフォルトとなっていて、僕ももちろん毎週見ている。

そして、いつしか自分も舞台側に立ちたい、人を笑かしたいという考えが芽生えたのは間違いなくこの時期。

この後、対して面白くない中学時代を送るが、、、この時に恐ろしく金持ちのメンター、「錬成塾」という破天荒な塾に入塾。

この塾の先生と出会い、僕のお金に対する価値観は崩壊し、またそれ以外にも色々な価値観を手に入れることとなる。

この塾はすごかった。

何がすごってとにかく先生が激金持ち。

ビルを2棟所持して社長として経営しており、毎月何にもしてなくても家賃が何百万と入ってくるので、暇すぎて塾を開いたという受験特化型ではなく、お金持ちの道楽イエーイ型の塾だった。

塾は2階建ての普通の一軒家。

また夏には10万円分の花火を買ってきて、河川敷で豪快にぶっ放すこともあった。

10万円分てすごいぜ。

花火ゾーンで店にあるもの全部くださいとか言ってた。

先生はコレクター気質で、ハマったものがあれば数百万単位で購入していた。

例を上げればペプシのスターウォーズのキャップや、ビックリマン、遊戯王、マジックザギャザリング（カードゲーム）等、

塾の二階には1000万以上のおもちゃが溢れかえていた。

ほんまに塾かいな。

その為、1.5リットルのなまぬるーいペプシとしっけしけのビックリマンチョコ10個食べ飲みすることが1日の塾生のノルマで、帰っても夜ご飯は食べられなかった。

いくら食べても飲んでも量は変わらなかった。

100万以上分もある。

これは、ビックリマンチョコだけでログハウスができる位の量だ。小さい家一個分くらい。六畳一間がパンパンに天井までくらい。

部屋の天井までパンパンにビックリマンチョコの山が死ぬほどあるという異様な光景。

またチョコは賞味期限がまあまあ長く、中1から中3まで、ビックリマンチョコばっかたべていた。ペプシとともに。

授業中に聞こえる音はシャーペンのカキカキではなくペプシのシュワーと汚いげっぷとサクサク感のないビックリマンチョコのじょりえーじょりえーという音だった。

また、飲んだペプシペットボトルを200本程頼りないビニール紐で結んで頼りないボートを作り、淀川に浮かびに行き本流に乗りそうになり危うく大阪湾の塵の藻屑となりそうになったこともあった。

塾は少人数制で僕の学年は全員で10人で、またポイント制と言う頑張れば頑張るほど、勉強すれば勉強するほどお金が貰える成金制度を導入していた。

これは、テストの点数がそのまま×10でポイントとなり、例えば80点なら800ポイントとなり、それがそのままお金として貰える。

テストの大なり小なりの種類は問わず。

そう、塾でお金が貰えるのだ。

この時点でわけわかめである。

100点取れば特別に1万円。

僕は1回だけ100点を取り1万円をGETしたこともある。

駄菓子屋で当時ハマっていたスルメイカ20円が入りまくった500円の箱を20個買って噛み噛みしまくって顎の筋肉が発達してしまい、顔のエラが出てしまうのはこの頃である。

後、トイレ掃除は1000円。

お遣いは1000円。

塾で飼っていた亀の甲羅を洗うと1000円

比較的容易にポイント（金）は貯まっていた。

また、先生が気まぐれでイズミヤで買ってきた卓球台が塾の2階にあり、そこで塾生同士でポイントを賭け合う、賭博卓球も横行していた。

この時まだ中学生である。

なんて塾だ。

しかもポイントは先生に申請すれば、

熟成同士の同意があれば容易にポイント移行は可能であった。

現実のお金の取引ではなくポイント間での取引。

今で言うネット銀行同士の振込のようなものだ。

20年も前にこのシステムを我ら錬成塾が導入していたので、当時特許を取らなかった私達に対し、世に蔓延っている銀行達はお礼として手土産の一つでも持ってくるのが筋だと思うが、そのような来訪は微塵もない。

今後も残念ながら恐らくないだろう。

常識知らずな銀行達だ。

家で貰うお小遣いを遥かに凌駕した異常なスピードで

塾生のポイント（金）は貯まっていく。（笑）

ポイントはいつでも先生に言えば換金してくれるので、僕は毎週ペンを購入するペンウィークを作り1万円以上ペンを買ったり、ゲームを数万円分買ったり比較的貯金せずに使いまくってお金に困らない中学生を送っていた。

UFOキャッチャーに1万円使うのは当たり前前田のクラッカーである。

中には卒業する頃まで堅実に貯金していた子もいて、卒業時に100万位貯まっていた。

高1で100万。

やばす。

また、ワニワニパニックと言う、ワニの歯を順番に押していき、噛まれた人がおもっくそプラスティックのカラーバットでケツをしばかれるといったゲームも大流行していた。

もちろん先生も参加。

これにより、塾生も先生も毎回お尻を猿並

みに真っ赤にして、座るとお尻がヒリヒリするので、全員立って授業を受けるといった異様な光景も珍しくなかった。

今で言う立ち飲み屋的な感じである。

これに関しては立ち飲みというシステムは先駆者が江戸時代より前からいると推測されるため、特許は申請しなかった。

そんなこんなで、この塾に入ったことで、お金があればたいがいなんでもできる、ビルを持っていたら遊んで暮らせるといった社会の勝ち組の形を勉強できたことは一番大きいかい収穫だった。

お金さえあれば最高に楽しいことが「ほとんど」できる。

中学生にして僕はそれを肌でひしひしと感じ、今後の思想にもっとも影響を与えるには充分すぎるほどの経験であった。

錬成塾、バンザイ！！

まあ、受験勉強に関してはあまり役に立たなかったのは言うまでもない。

この塾の先生の影響もあり、僕は金持ちになるために1番初めに不動産に手を出すこととなる。しかしそれはまだまだ先のお話である。

時は流れ、拝金主義の塾のお陰か自分の実力が定かではないが地元ではわりかし有名な進学校に合格でき、塾も卒業し、新たな高校生活を始めることとなった。

高校ではバレーボールに専念し、兄弟間での戦争で培った驚異的な身体能力でレギュラーを獲得し、また他のレギュラーも全員が体力試験10位以内で何故かそんな奴らがバレー部に集まったこともあって、通っていた高校で初めての大阪代表まで上り詰めたりしたのは良い思い出である。

今でも学校の玄関に写真が飾られているであろう。捨てられてるかも。

また僕は高校生頃の頃も、ずっとお笑い芸人になりたかった。

大阪の元気な子なら一度は夢見ることかもしれない。

人を笑かすということは本当に気持ちいい。

小学生、中学生と僕の将来の夢は変わらずお笑い芸人だった。

今でも忘れない、M1グランプリ2006に高校2年生の時に挑戦した。

もちろん1回戦負けだ。

(この時の優勝者はチュートリアル、かの有名なチリンチリンの時だ)

(当時、コンビを組んでいた相方は現在売れっ子芸人の○○としてアメトーークとかテレビに引っ張りだこでめっちゃ出てる！頑張れ！横にいたのは俺かもしれなかったのに！くっそー！ニーブラ！)

高校も3年生になって、僕は真剣に進路を考える必要があった。

この時も相変わらずお笑い芸人を目指していたが、大学に入ってからでも遅くないと思っていたし、このままNSC（吉本のお笑い専門学校）に入学するよりも、見聞を広めながらお笑い芸人を目指そうと思っていた。

また、心理学を学んだら、人はどうすれば笑うのかがわかってより多角的に笑いを追求できるのではと思い、心理学科を目指そうかとも考えていた。

そして色々考えた結果、大阪の吉本に近い大学を受け、落ちる。

めっちゃ落ちる。

これでもかと言うくらい落ちた。

世間的には難しくない大学。

僕は高校で受験勉強を全然しなかったため、いやしたのだが勉強方法が恐ろしく誤っていたため成績も伸びずまあまあのアホだった。間違った努力を人一倍はしていた。

僕の高校では俗に言う関関同立という関西の有名私大に行く人も多く、僕が受けた大学はその格下だったので余裕で受かると思っていたが、全然駄目だった。

もちろん関関同立も受けて全滅。（これがクソ長い学歴コンプレックスを拗らせる原因となる）

後に知るが、僕は一番やってはいけない勉強法を進んで行っていた。

朝の7時から夜の12時まで塾の自習室で勉強（してる気になっていただけ）。

参考書をすぐに変えて何十冊もする。

とにかく書く、書く、書いて覚える暗記法。

また、希望大学の過去問をこれはとっておきだぜと好きな食べ物を最後に食べる的な感じで残し、本番入試の1週間前に初めてやるという、無駄な温めを行ったため、希望大学の傾向や対策を立てられずぼぼぶっつけ本番みたいな勉強法。

相手を知らずして本番に望むという無謀な挑戦。（この記事を読んでいる高校生がいたら、どれか一個でも当てはまっていたら、全部絶対落ちるでー！）

そして、本番の日には今までやってきた参考書をバックに入れまくり、10キロ位の重さになったバックを背負い、俺はこんなにやってきたんだと自分に言い聞かせるといった分けわからん行動をしてバッチリ落ちるといった、ただ重くて肩がこっただけのアホ思考。

家は親が公務員ながら4人兄弟であったため、浪人させるお金もなく、浪人は絶対ダメと言われていたのもう最後はどこの大学でもいいから入らないとやばすという状態。

落ちるということは絶対許されない状態、全て落ちた時のことは考えられない状態で窮地に追い込まれていた。

僕は希望大学に全て落ち、最後の3月にある、その時までは聞いたこともなかった大学に最後の望みを掛けなんとか合格。

そして学歴コンプレックスまみれの大学生活が始まった。

学歴コンプの中二病だった僕は、勉強では勝てないので、それ以外に勝てる何かを探し始めた。

自分が得意なもの、それは、人を笑かすこと、行動力、発想力であった。

当時、学歴コンプが変化して「人生とは何か」という難題にぶつかっていてこれを解決すれば学歴コンプをなくせるかもしれないと思い、図書館で哲学書を読みまくっていた。

そして、自分はちっちゃえ人間でなんも知らないんやと認識することが非常にかっこいいとソクラテスから学び、それをもっと体で感じるために、日本で一番でかい富士山を見て、自分のちっさを認識しようと富士山への旅を企てた。

ここで、得意なこと、発想力を活かすために、普通に富士山に行くのは面白くない。一万円で原チャ（カブ）でいくのは話すネタになっておもしろいのではないかと考え実行した。

18歳の僕にとって、何かをするときには一癖付け加えて精一杯人と差別化を図ることが、自分の中のアイデンティティであった。

期間は1週間。

カブは出発から約10時間後、あの世に旅立った。60キロで10時間爆走したことによって、エンジンが燃えてしまったのだ。

長嶋スパーランドを眺めながら、まだ愛知かあと呟き、たまたま見つけたバイク屋でカブを引き取ってもらって残り数千円で、足がなくなり途方にくれていた。

しかしここで得意の行動力を活かし、近くのコンビニでペンとノートを買い、でっかく富士山と書いてヒッチハイクを始めた。

富士山見てくるわと家族に啖呵を切って次の日にバイク壊れてんと帰ったらかっこ悪すぎるということもあった。

機転の利き方には自信があった。

ヒッチハイクを予定していたわけではないのに、ヒッチハイクに切り替えた。

目標が達成されない可能性が高い状況で

最善の方法は何かを考えて行動することは得意であった。

冷蔵庫にあるものだけでおいしい料理を作ったり。

与えられている物や状況が少なければ少ないほど、頭を働かせて困難を乗り越える感覚が好きだった。

Mである。

だからといって少ないほどいいわけではなく、当然手持ちの武器や選択肢は多い方がいいに決まっている。

とはいうものの、突然予定が狂ったり、イレギュラーなトラブルを乗り越えるのは今でも得意だ。

なんの話かよくわからなくなってしまった。

まあこのヒッチハイクを通していろんな人に出会い、人間的に成長できたと思う。大学生でお金なくて野宿でヒッチハイクをしていることを告げると、殆どの人がご飯をご馳走してくれたり、車に乗せてくれた。

本当に感謝。

人は本来やさしい生き物だと思った。

うっとうしいやつも嫌いなやつも、きっといい所があるに決まっている。

人間だもの。

僕の周りにはヒッチハイクとかそんなことやっている人はいなかったのだから、人がやらないことやってる俺すげー感は半端なかった。ただのヒッチハイクなのに、幸せものである。でも日本では案外経験者は少ない。

当初は富士山を見て、自分は小さいと感じて物思いに耽って帰ろうと思っていたが、せっかく来たのだから登ろうと急遽予定変更。

事情を説明すると、5合目の宿のおばちゃんが宿をただにしてくれた。

絶対に忘れない。本当にありがとう。でも今は宿の名前もおばちゃんもおじちゃんの顔も忘れた。僕は無慈悲だ。

当然、登る気はなかったのだから軽装しか所持していなく、登頂時には死ぬほど寒かったのを覚えている。

そんなこんなでこのヒッチハイク以後、人が考えない、しないことをいっぱい大学生の内に行うことで学歴コンプレックスを払拭しようと考えて生活をしてきた。

なんとか自分に自信が持てるような武器や経験が欲しくてたまらなかった。

学歴コンプレックスに押しつぶされそうな自分を必死に庇っていた。

一方、高校の時にコンビを組んでいた相方は辻調理師専門学校に行ってしまったため、お互いにお笑い芸人になろうと言った夢は一度据え置きとなって、互いに社会経験を積むことになった。

大学では学歴コンプを拗らせ、仮面浪人でまた関関同立を狙う気で満々だったが、それまで1年間勉強だけはしんどいし、せつかく大学入ったんだからとクラブに入ろうと、部員が少なくて無理な勧誘がなかった写真部に入部した。

僕はここで学歴コンプのことを忘れるくらい最高のリア充ライフを送った。

そしてこの入部を機に、写真関係の仕事に興味を抱くようになった。

カメラマンで、かっこいいやん。

そんな折、相方が本気で芸人を目指すため、辻調理師専門学校を辞めた。

そして僕らは、今でもくっきりと覚えている浮浪者臭い京橋の時計台の下で、芸人になるかと言うことについて本気で話し合った。

相方は、一緒にNSCに入って芸人を目指そうと熱く熱く語ってくれた。

そんな相方に対し僕は超絶失禁ものの理由でそれを断った。

「芸人の世界は上下関係がかなり厳しいのはテレビとかで見て知っている。俺はどうしてもMr.オクレに頭を下げたくないんや。自分が面白くないと思う人になんで頭下げなあかんねん」

これが僕が芸人になることを断った理由だった。

僕がそういう思想になるのは必然であった。

生まれた時から4人兄弟で、力が強いやつが得をするということ。

高校の時に王将でバイトをしていて皿を適当に洗っていたら、めっちゃデブの先輩に「お前次皿を適当に洗ったら殺す」とデブの凄みを受け、力が強いやつが偉そうにしてきたこと。

大学の時に生徒会役員の人がお偉いさんと呼ばれていたこと。（一緒の学生で偉いとかなんなん？）

こんな経験をしたことから、福沢諭吉ばりに「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず」を僕はもっと一にしていた。

だっておかしくない？

たかがちょっと先に生まれただけで、なんでそんなに偉そうなん？

みんなおんなじ人間やん！

偉そうにすんなよ！なんやねん！

総理大臣もジャングルに住む原住民も俺も、人間だもの！

リスペクトキング牧師！マンデラ！ガンジー！マザー・テレサ！

と心の声は偉そうにしてる人たちには届かなかった。

Mrオクレも例外ではなかった。

あるテレビ番組で、後輩らしき人にちょっといじられたときに、「俺、先輩やぞ」と果てしなくかっこ悪い、俺は偉いからいじるなといわんばかりの発言をしたことにすごい嫌悪感を感じて印象に残っていたことから、

「Mrオクレに頭下げたくないんや、芸人にはなれん、ごめんな」といった返答になってしまった。

ほんまにそんな理由で断る、痛い痛い人間であった。

相方もそんな僕の屁理屈を受け入れてくれて、今現在では売れっ子としてテレビで大活躍している。

そんなこんなで僕は写真部のリア充大学ライフに浸り、初めて覚えた車の運転や酒やタバコに酔いしれていた。

この時、また関関同立を1回生の時に再挑戦して落ちても、あまり気にはならなかった。それほど大学生活をエンジョイしていた。

そうはいつでもやはり心に染み付いている学歴コンプレックスは簡単に払拭できることはなく、リア充ライフを楽しんでいたのは、ある種この気持ちを誤魔化していただけに過ぎなかった。

そして、コンプレックスをただひたすら隠すために、俺はこの大学にいる奴らの誰よりも凄い。こんな大学にいる人間ではない。と全裸で道を歩くより恥ずかしい思いを持ち、誰もやらないことをやるのが人間として凄いと劇的に誤った思想のもと、このイベントは開催された。

それは6人7脚だ。

駅から大学までをただひたすら6人7脚で向かうだけ。

これにより学べたことは、もちろん何もない。

無駄な充実感と、一生使うかわからない6人7脚が少しうまくなったくらいだ。青春である。

また、24時間ゴミ拾いというイベントも行った。

その名の通り、24時間ゴミを拾うだけのイベントである。

これは、先程の6人7脚を感無量で成し遂げた後に、自己満足だけで終わるのはもったいない。自己満足+人の役にも立つことを次はしようと思い、24時間ゴミ拾いは行われた。良いのか悪いのかよくわからない成長である。

まあ、一般的に街をきれいにすることは良いことなので良しとしよう。

当時は、人の役に立つ俺、超絶かっこいいぜと思っていた。
これもまた青春である。

またこれも特に学びはなかった。
集めたゴミをどう処理すればよいか役所に電話しても、「そこからは〇〇市役所の管轄になりますので、そちらに問い合わせてください」とマニュアル通りの対応を各役所でされて、たらい回しにされた挙句、どこも回収してくれず、結局大学のごみ捨て場に捨てるといった解決方法で乗り切ったのだが、これだけでも公務員はクソだと言うことがおわかりいただけるだろうか。

そう、公務員は、クソなのである。
そんな僕は元公務員。
辞めてよかった。

話を戻そう。

そんなこともあって、公務員はクソだというイメージが膨らみ、自分の親も公務員なのに、公務員を毛嫌いし始めたのもこの時期位からである。

そして大学も4回生になろうという冬の終わり、みんながあわわあわわとポンコツ企業への就活に足を運んでひいこらひいこらしている時、僕は愛車の125cc X Lとともに広島にいた。3回生の後期テスト期間の当日である。
同級生の就職活動真っ只中、僕は大事な就活に影響するテストから逃げた。
突然原爆ドームが見たくなかったのだ。
修学旅行で行った広島。
本当にやりたいかもわからない企業への就活。
僕は就活から逃げた。
僕は一度もリクルートスーツを着なかった。
そう、就活未経験である。
自分が持っているスーツは、行きたくもない大学の入学式に母さんに買ってもらったスーツ一つだけ。
ネクタイも一つだけ。

広島ではアンチ公務員を体に刻むため刺繍をいれた。

世に言うタトゥーだ。

これは、日本ではヤクザに入れている人が多いという理由だけで拒否されている。
日本には、昔の名残という凝り固まった悪を守ろうとする風習がある。
伝統を守るのとはわけが違う。
今の時代に合わない昔の価値観の刷り込み。
そしてそれが絶対正しいという思い込み。

こんな日本人ばっかやから、新しいことに挑戦する人が少ないのは至極当然の結果である。
本当になんで拒否されているかわからない、
日本の悪しき風習である。
僕は左肩にアイデンティティという、文字をといた。

その時ハマっていたみうらじゅん原作のアイデン&ティティという映画を見て触発されていたのだ。

これは、自分を持つということ、人とは違う自分を認識することといった意味であるが、そんな深い考えはなく、映画を見てそのタイトルをタトゥーにしたら、なんかおもしろいかもといったクソ浅はかな理由だった。

しかし、後悔はない。

またタトゥーがあれば公務員になれないことを知っていた僕にとってこのタトゥーは、公務員には死んでもならない、国の奴隷め！俺はロックだぜ！と中二病を拗らせていた自分を満足させるには充分すぎる効果があった。

でもそれは、あんなに毛嫌いしていた公務員になるために20万以上のお金を費やして手術で全部消した。

しかし、僕のアイデンティティは消えなかった。
むしろ強くなったかもしれない。

破天荒な行動がかっこいいと思っていた僕にとって、考えまくっても自分がしたいことなんてわからなかった。

ただ、偉そうな奴に従ったりするのだけは、嫌だなという気持ちは漠然と持っていた。
偉そうなやつに従わなくいい立場って、社長以外にないんちゃうか。
でも、起業するにしても、何をしたいかわからない。

人と違うことをすることに情熱を燃やしていた僕が次にしたことは、就活ではなく世界に目を向けることだった。

就活なんかやってられるか！
俺のロックはそこじゃない！
痛い痛い病の発症である。

現実逃避に精を出していた僕は、世界に目を向ける前に、まずは日本の首都を制するため後輩たちと東京まで車で3人旅行にいった。

そして、その時クソオービスに引っかかり一発免許停止で罰金10万円を払わなければならなくなった。

大学生の僕にそんな大金はなく、どうにかしなければならない状況で写真部なのにカメラを売った。

そして10万はすぐに手に入った。

人間はやろうと決意したら、その覚悟が本物なら達成できると、AKBがいいようなことを身を持って知った。

このカメラを売っただけだが、10万すぐ作れたことを機に世界を旅しようと思っているもののお金がないと足踏みしていた自分の尻に火がついた。

ネットで調べたりすると100万あれば世界を一周できるらしい。

僕は、半年で100万貯めることにした。

世界を旅したい気持ちは日に日に強くなっていった。

日本には俺よりおもしろくて凄い発想をするつはない、世界だ！世界を相手にしてやると、書くだけでも恥ずかしいが当時はそれを本気で思っていて、また、当時（といってもこの時でも10年前くらい）猿岩石がユーラシア大陸を横断したこともあってそれが印象に残っており、世界一周に憧れもあったことから世界旅の為に一時休学をしてバイト半年、旅半年を計画した。

一時休学にしたのは、親に「世界を見てきて良いと思ったところに住みたいから大学辞めるわ」と、相談したところ、

マグマ噴火で「教員免許を取って教師になる道を残しておけ、大学をやめることはもったいないか許さんぜよ」と激おこポンプン丸で言われたので、チキンなこともあってとりあえず帰ってきて教員免許だけ保険のために取っとくかって感じで休学にした。

クソチキンである。

早速僕はカンカン工場で働き出した。その工場は12時間勤務で夜の8時から朝の8時まで一生懸命働いた。

仕事の内容はただただカンカンを確認する仕事だった。

それはどんな仕事かと言うとカンカンに傷がないかどうかを確認するだけ。

この仕事の給料は夜の8時から朝の8時まで12時間働いて約1万3000円。

僕はこの仕事を大学を休日してか4月から7月までの4か月間週休5日間で働いた。

100万円の収益になった。

い一つか一旗あーげてやるー♪と自作した歌を延々頭の中でリピートしていた。

トドメに8月には治験のバイトに行った。

怖いとネットで治験のことが書いてあったが、全然怖くなかった。

人ってある1つの情報を信じてしまうと、それに対する正確な情報かどうか判断せずに信用してしまう生き物である。

それは、自己防衛だ。

自分の知らないことは決して認めない、自分の世界がすべてだと思い込む。

それが間違っていたら、自分の今までの人生を否定することになるので、新しい情報を信じることは容易ではない。

治験をしたことがないので、治験は危険だという。したこともないのに、ね。

新しい情報を信じ受け入れたやつだけに新しい世界や価値観は手に入る。

治験は北里大学に約1か月間入院して50万円の治験代。

僕は約150万円の旅行のための資金を手に入れた。

やればできるやないか。

そして、8月、いつの間にか資金が100万を切った状態で夏の暑い日に神戸の港から中国に向かった。

どこに行ったかわからない50万。

多分酒だな。

この時まだ20歳。

僕は世界を知らなかった。

世界をもっと知りたかった。

世界には僕よりももっと面白い人がいるのかどうか僕はそれを確認しに行きたかった。

なぜなら日本で僕より面白いと思う人は少なかった。

事実は別としてこれは本当に恥ずかしい。

そう思うなら芸人に早くなれば良いのに試さないことで現実から逃げた。

自分1番すごい病はもう第4ステージだった。

思うのは自由である。

そしてある行動にスパイスを加えるという十八番。

髪の毛を7色にし、頭のとっぺんをツルツッパゲにして地毛でちょんまげを作った。

ヤフオクで2980円で買った着物を設えて100均のおもちゃのプラスチック剣を腰にかざしていざ出陣。

レインボー侍！とかいって日本を発った。

今でもそのブログは残っているので興味ある方は連絡下さい。

恥ずかしいけどブログ教えます（笑）

しかし、反日中国人に殺されたら怖いのですぐにレインボーヘアーを削ぎ落とし出家スタイルに。

中国を出たらまたちょんまげっぽくカットしよう。

初めて訪れた国は中国だった。
ここからユーラシア大陸を横断する予定だ。

中国では驚きの連続だった。
中国に行くのと中国で働いてる人達は日本では比べ物にならない値段で働いていた。
例えば1か月で1000円の給料もない。
しかし、中国人は楽しそうだった。
中国のゲストハウスで知り合った中国人と、少しだけ一緒に旅をすることになった。
そして地方のゲストハウスに到着すると壁にいろんな国の国旗が描かれていた。

僕はもちろん日本を探した。
すると、衝撃。
日本の国旗ははハサミか何かでめちゃくちゃにされていた。
ちょんまげ剃っておいてよかったと心から思ったぜ。
しかし、横にいた一緒に旅をした中国人は、とても悲しそうな顔をしていた。
「こんなことするやつは許せない。最低だ。
国がどこか関係ない。we are the world。」
と僕を励ました。
彼にはマイケルの後光が見えた。

日本では中国には反日が多いと聞いていたが、全くそんなことはなかった。一部しか放送しないメディアはアテにならない。信用できない。
僕は自分の目で見たり聞いた情報が一番信用できることをこの時知った。
メディアは、洗脳だ。
都合の良い人間を作るための。
それに気づけたことはかなり大きい。

その後はベトナムに向かった。
そこではショルダーカバンに入れていた財布（カードと現金10万円）が盗まれるといったトラブルもあった。
現地人からすれば1年分の生活費になる。
そらジャップがスリのターゲットになることも頷ける。
お国柄警戒心が弱いからである。
日本に住んでてスリになんかあうことないが、外国では実は日常茶飯事。
しかし、逆に僕はこのトラブルを楽しんだ。
「面白い旅になってきたぜ」

その後タイに親から再発行したカードを送ってもらいカンボジアに向かった。

僕はここでとても悔しい思いをした。

カンボジアの人は小学生でも英語を話せるからだ。
カンボジア人はすごく英語の教育に熱心だった。
幼稚園児でも英語がうまい。
ここで英語の重要性を知り、死ぬほど勉強し始めた。
髪型をちょんまげ風に戻して着物で街を歩いていたこともあり、コンビニ等で何度も写真を取られた。
それで自分は凄いと勘違いしていた大馬鹿者である。

その後も順調に
インド（よく言われるが価値観は変わらず）
ネパール（飯がうまかった）を旅した。
ネパールでは、ゲストハウスで知り合った日本人に「なんかサムライが旅してるらしいよ」と僕の侍が噂になっていることを知った。
。
常に侍の服を着ているわけではないので、僕がその本人だとはバレていなかったのだ。
しかし、他の国にまで侍が旅していることが噂になるとは、旅人同士の情報交換は半端ない。
その後侍に着替えてから登場して大盛り上がりしたのは言うまでもない。

そして、時間の関係で飛行機を使い
エジプト（ピラミッドより通天閣を見たときの方が感動した。）
イタリア（アルバイトした）
と駒を進めた。

ユーラシア大陸横断は猿岩石と同様に飛行機を使う羽目となった。

旅の最終地点はイタリア。
1ヶ月後に帰る予定であったが、金が足りなかった。
金を稼ぐ必要があった。

僕はイタリアでバイトした。
雑貨屋の看板に日本語でアルバイト募集と書いていたのでお店に入り、すみません仕事したいんですけどといったら
その場で即採用。
映画ローマの休日での有名なスペイン階段の噴水のところで、日本人の観光客に対し、
「おみやげいかがですかーこのチラシ持っていくと割引ありますよー」と、大阪梅田でよく見るしつこい客引きと同じことをしていた。イタリアで英語で韓国人に。もちろん日本人には日本語で。
人種のサラダボール。
給料は確か1ヶ月で13万円だった。
が、一週間でやめた。
何故なら時給換算したら500円もなかったからだ。
その代わりにネパールでお土産用に買まくったイヤリングを路上で売り始めた。
しかしこれも数日で私服警官にブチ切れされて閉店。

何かして飛行機代を稼がなければとコロッセオの前で古代ローマ兵士のコスチュームを着て、ワンピース1ユーロと商売をするおっさんを見て閃いた。

「俺も侍の服を持ってるから商売になるかも」しかし場所はイタリア。あえなく断念。稼ぐフィールドが違いすぎた。

グローブを持ってサッカー場に行くようなものである。パンツ一丁でスーパーに行くようなものである。

考えに考えた結果、

僕に今できることは、写真部で培った、カメラであることに気づいた。

そこで僕は、地球の歩き方でイタリアのローマの観光スポットに纏わる基礎知識や歴史、はたまた神様の名前などを覚えまくり、道行く個人旅行者に「ガイドやってます。カメラも教えます」といって、自分が撮った写真の裏にメルアドを現地で買った携帯番号を書いて渡して自分の得意分野を活かした商売を始めた。

そして数日写真をばらまくと、一通の連絡が！！

ガイドしてください。

と仕事の依頼だ。

初めて自分の能力を活かしてお金を稼げた。

これで俺はやっぱりすごいんや、人と違うんやと勘違いしてしてしまった。

病気は最早ステージ5である。

しかし、これも飛行機代を稼げるほど多くはなく、最終的に親に泣きつくといったマザコン令を発令して金を借り日本に帰途した。

僕はこの旅を通して、色々考えて挑戦したもののお金を稼ぐのは難しいといった、ネットビジネス業界に入るための壁を自分で作ってしまった。

正しい知識を持ってビジネスを行えば必ず結果は出るのに、その知識を持たずに自分が今持っている知識だけで戦ったから負けた。

間違った努力はもったいない。

正しい努力をしなければ、成果は出ない。

受験もそうだし、稼ぎ方もそうだ。

なんにでも、成功するための型が存在する。

それを一番はじめに学ばなければならない。

バットを何も考えずに振っていても、うまくはならない。

「考えて」振らなければならない。

そんなことを僕はこの旅で学んだ。

旅を終えて、稼ぐことを難しいと思ってしまったことから本格的にネットビジネスに参入するのは、これから10年も先の話である。

この後、在学中にメルマガアフィリエイトの情報商材や株に手を出したが、お金は簡単に手に入らないと激しく思っていたため、真面目に取り組むことも継続することもなく、金をドブに捨てて現実的な就職に目を向け始めてた。

この時ちゃんと、取り組んでいたらと後悔しても後の祭り。

くそつたれ！ネットビジネスの世界を早い段階で知ったのにもったいないなんで信じなかったんだ！

理由は簡単で、大学生にとって100万以上稼げると言われてもイメージできないし、想像できない。

イメージできないことを人間は

恐怖して信じない。

教材を3万出して買ったのに、根本的にネットビジネスは才能あるやつが稼げる世界だと思っていて作業しなかった。

そら成功するわけないあ——もったいないこの10年間。

とりあえず現実的な就職先として日本に帰ってきて教員免許を取ったが、カメラに興味があったこともあり、教員にならずにカメラスタジオで働き出した。

ここの社長はキングオブ糞だった。クソリンピックの三冠王である。

僕は大学在学中に仕事を始めたので、卒業したら経験者待遇の給料にするとされていたのだが、大学卒業した時に新卒で入って来た新人と同じ給料だった。

理由は、不景気だからとのこと。

激しく憤怒した。

まただ。

力の弱いやつ、立場の弱いやつは、力の強いやつ、立場の強いやつに従わなければならない。

それが嫌なら自分がトップになってできる仕事をするしかない。

そんな思いは次第に強くなったが、やり方がわからないため、とりあえず転職を目指した。

人類はみな平等やないんや。

雇われながら生きる方法しかないと思っていた当時の自分に平手打ちしたいぜ。

次に入社したのは雑誌社であった。

雑誌の記事のカメラマンだ。

しかしここは2週間で辞めた。

理由は残業が多いからだ。また、都合の良いタイミングで海外で働かないかという誘いが友人のつてであったからだ。

英語おぼえてよかったと心から思った。

(といっても日常会話程度でトイックは400点くらいで糞レベル)

数週間後、僕はフィリピンのマニラにいた。

ITディレクターとして働き始めたのだ。

ここは2週間で首になった。

僕が海外就職を希望した理由は、海外は残業がないと聞いたからだ。

ところがどっこい、僕が就職した企業は日系なのでバツリバリの体育会系日本式であった。

残業は基本2時間以上、土日休みと聞いていたが土曜日は月2回出ないといけない。

話が、ちがーう！

僕は、同僚のフィリピン人達に「お前らは搾取されている。時間も金もだ！日系企業でなく外資系に行くべきだ」と諭しまくった結果、数人の心を動かしてしまい、しまいには転職活動を始めた奴も出始めた。

僕は、フィリピン人の心を動かしたのだ。

やはり、僕はすごいんだ。

しかし、この勘違い行動で首になった。

定時のチャイムがなる中、責任者よりも誰よりも早く会社を出る僕、優秀な社員に転職活動のキッカケを与えた僕は、会社にとって反乱分子であった。

会社に奴隷勤務して2週間後、僕は責任者に呼び出された。

責「あなたはこの会社に向いていない、定時に帰るし、他の社員に変なことをしているわね？」

僕「定時に帰ることの何が悪いのですか？変なこととは何ですか？僕はただ、給料を貰わないで働くのはボランティアと一緒にだよ。サービス残業は技術と時間を搾取されてるんだと教えてあげただけです」

責「サービス残業はみんなやっていますのでしてください、また、他の社員に変なことを吹き込まないで下さい」

僕「私に働いてもお金のもらえないサービス残業をしろと？会社の犬になれということですか？」

責「そういうことです」

僕「それはできません。私はボランティアをしに来たのではなく仕事をしに来たのです。もう首にして頂いて結構です」

殆どこのまんまの会話で話した。会社の犬にはなれません。

まただ。

もう何度目だ。

偉いやつに偉そうな対応をされて、自分の人生を左右されること。

もう雇われて働くのは無理かもしれない。

首が成立した。

晴れて無職となった僕は、帰国までの数日間フィリピンで雇われない生き方を模索していた。

ネットサーフィンをしてるうちに今ではかなり有名になっただいぼんのブログにたどり着いた。

この人、僕と同じ年で月に100万？

嘘やろ？そんな世界あるわけない！

そしただいぼんにフィリピンでの現状をメールして、当時のせどりとPPCの商材を購入し、東京で始めてみた。

しかしそんな世界を心から認めていなかったこともあり、真剣にすることもなくせどりを数日して、もう辞めていた。

当時の自分に助走つけてドロップキックしてあげたい。

しばらくの間は、治験で出会った東京の友人の家に止めてもらい東京でのプータロー生活を満喫していた。

東京での生活に飽き始めた頃、兄が仕事中に瀕死の事故に遭ったと聞き、大阪に帰った。

兄は父親と同じ警察官で、どうやら仕事中にトラックに引かれて意識不明の重体らしいとのことであった。

しばらくして兄は意識を取り戻し一命をとりとめたが、腰を骨折しておりボルトを入れる大怪我で全治二年だった。

病室で兄は僕にこんなこと言った。

「おまえ、仕事探してるんやろ？警察はいーぞ、こんな大怪我しても毎月給料貰えるんやぞ？まあ、入ったもんが先のやつが偉いから高卒の18才の年下に偉そうにされることもあるけど、それでもいー仕事やぞ。合コンでもモテるぞ」

次の日、僕は公務員試験の参考書の第一問に取り掛かっていた。

タトゥーも手術で消した。跡は消えないが。

うお一金はいるモテる金はいるモテるぞー！
欲の塊爆発である。

しかし、僕は人生で一番したくないことは、認められないやつに頭を下げることで、ザ・上司に頭下げる仕事ナンバーワンかもしれない警察になるには、それなりの覚悟を要した。

しかし、逆にこの警察官になり自分が一番嫌な状況に立たされた時、辞めたいがためにとんでもない力を発揮するのではないか。

給料も社会的信用も手に入るので、それを不動産投資にええやん。

ちろっと調べたら不動産投資で融資を受けるには公務員は最高ランクの社会的信用ということだった。まあ、首がないもんね（後で全然そんなことないことを知る。瞬速で首なるやつめちゃおった）

まあいいや、火事場の馬鹿力的なもんを発動するか！

5年以内に辞められるようにしよう！

僕は公務員を辞める為に公務員になることにした。

なんって遠回り回路なんだ。

しかし公務員になる

メリットはすぐにデメリットを包み込んだ。

すぐに未来図を描いた。

まず、何の魅力もない公務員になる→給料が安定する→銀行が大金を貸してくれるような社会的信用を得る（そんな仕事は大企業か公務員しかない、てか公務員の方が信用は上）→その信用を使って不動産を買う→公務員の給料を超える→晴れてリタイア

完璧だ。美しい。

そして現実が大きく上方修正することになるんだなこれが。

僕がこの計画を立てたのは23歳の時だった。

そして警察官になったのは25歳の時だった。

起業して辞職したのは30歳を超えてすぐ。

2年もの月日を掛けてしまったのは、最終面接で5回も落ちたからだった。

面接の本番を外で鬼緊張しながら待っている時に、中から面接官の笑い声が聞こえた。

こっちは人生掛けて面接に挑んでいるのに、何笑ってんねん！フザケンナ！

と、本番中に面接官をずっと睨んでやったら、「君は目つきがすごいね」と言われた。

つまり、未来の上司に対しそんな攻撃的な目つきをする奴はうちの会社に入らないよばいばいということだった。

この2年の間に、旭屋書店で働いたり、ネットショップの責任者を経験した。

特にネットショップの責任者には半年でなってしまった。

これは優秀とかではなくて、責任者と僕の二人だけの会社であって、責任者がうつ病で辞めてしまったから、必然的に僕が責任者になってしまっただけだった。

この親会社はリアル店舗でカバンを売っていて、僕はそのネットショップの責任者をして楽天やアマゾンや自社HPでカバンを売りまくっていた。

僕は仕事したくないが為に、サボる為に物事を効率化することを考えることが好きだった。この考えは後に警察官になった時にザ・公務員的な考えであることを知る。具体的にはお昼までに1日のやらなければならない作業を終わらせ、午後からはずっと2チャンネルを見るといった生活が1年続いた。

この時間をネットビジネスに充てていたら、ネットショップで学んだサイトデザインや売る技術を有効に使っていたらとは考えていたが、この技術はほとんど使いもんにならなかった。応用が利かない、マニュアルだったからだ。残念。また、暇な時間はあればあるほどやらなければならないことをしないのが人間だ。

静岡県民が富士山にみんな登らないように。富士山は日本人として一度は登らなければならないと僕は偏見まみれでそう思っている。クラブ活動をしている子の方が帰宅部で勉強をしているやつより成績がいいように。

時間は程よくない方がいいのかもしれない。
うん、言い訳だ。

しかし当時は窮地に追い込まれたいというMっ気が顔を出していたので、本格的にリタイアに向けて考え出すのは警察官になった後にしようと思っていた。

遠回りフィーバー馬鹿野郎クソ野郎とはこれを言う。

月日が流れるのは早く、警察官になって早5年が経っていた。
当初にやめようと思っていた期間はもうタイムリミット間近だった。

まあ、その間に公務員看護師の妻と結婚、子供も3人生まれ、知らぬ間に夫婦世帯年収1000万のまあまあ世間的には中流階級になっていた。
5年前はプー太郎だったのにすごい変化だ。

また不動産投資にも精を出し、最初は反対していた妻に次第に僕の気持ちが伝わり協力してくれるようになり、月20万円の不労収入を手に入れるようになっていた。

もうこのまま別にリタイアしなくても、不動産もゆっくり増やして行って、仕事も慣れてきたし定年までこのままでいいかもとクソみたいな考えが心の中に蔓延っていたこともあり、ゆっくりではあるが確実に収入をクソ亀みたいな速度で増やしていった。
なんとかのんびり稼いで自分の給料を超えられるようになるのはあと5年くらいかなー、まあ全部で警察を辞めるまでに10年かかっちゃうけど、確実にいけそうやしゆっくりいこかーと考えていた。

そんな時に僕の全ての考え方を変える出来事があった。

僕は不動産投資以外にも収入を伸ばす為に転売を始めて、なんとか初月で100万の利益を手に入れていて、こりゃ不動産より儲かるスピード速いやんけど、もっと勉強する為にyoutubeの転売系の動画を何十本もスマホにダウンロードして通勤中に聴きまくっていた。

そこに一つだけ、転売の話とは別の動画が入っていた。
何気なしに聞いていた時に、人生が変わった。

「え、何？寝てても月収500万？大学生？他にも同級生に教えたらみんな月収100万こえちゃった？なんっじゃそりゃあああああああああああ」

どうせ嘘やろと思いながら、他の動画も見て見ると、え？ほんまなん？ほんまにほんまなん？そんなことあんの？俺の年収を1ヶ月で稼ぐってどないなってるの？そんなんハゲの孫正義とかハゲのビルゲイツとか、ハゲのスティーブ・ジョブスとか、ハゲの人だけの特権ちゃうの？大学生とかそんなんむりやろ年下やのに！ハゲてないやろ！えっもしかしてハゲてんの？

僕は世間の、また卓越した洗脳教育を受けていた僕の常識のものさしで測っていたため、そんな世界はありえないと思った。（後にドリームキルバイマイセルフという夢殺しの一種の重症だと知る）

そして、他にも同じようにその稼ぎ方を教えてもらったと言う人のブログが3人も4人もいて、みんな同様に月収100万を軽く超えているようであった。

ほ、ほんまもんの神様が現れた。

仏教もキリスト教もイスラム教も神教も、ぼくは何も信じていなかった。

何故なら何もしてくれないからだ。精神的に豊かにしてくれるかもしれないが人生を物質的に豊かにしてくれない。お金をくれることはない。

豊かになるのは教えている方、つまり宗教というシステムに乗っかっている方だけだということを知っていたからだ。

しかし、ネットの世界には物質的に豊かになる方法を知っている、現実の神様がいた。

何も信じなかったかった僕はいとも簡単にこれを信じた。

昔フィリピンにいたときにネットビジネスの存在を知ってたのに、何故真剣に取り組まなかったのかこの時わかった。

そんな世界はありえないと、自分の常識を、自分の今までの人生を否定されなくなかったからだ。

しかし、この時、僕はあっさり今までの自分の常識や考え方を捨てることができた。

（この僕の心を動かした技術は後にコピーライティングということを知る）

自分の今までの常識と価値観は「お金持ちになる上で」激激間違っていた。

プライドをぶん投げた。

この若者達は僕より上にいることを認めよう。恥を凌いで学ばしてもらおう。

心を動かされた。
僕もこんな風になりたい。
心はすでに阿波踊りを始めていた。

不動産投資と転売じゃ、後5年はかかりそうだ。
すぐにでも辞めることができるこの爆発的なビジネスの方法を知りたい。
もう来年には辞めたい！
やっぱりおもんないよ公務の仕事！

僕はここから生活を変えた。
通勤中は必ずyoutubeで勉強、
仕事の休憩中にはサイトの記事の概要を作成
帰って子供が寝たら、最低でも2時間以上はサイト作成

フィリピンでネットビジネスに出会った時、
ネットショップで暇を持て余していた時、
全く続かなかった僕にとっては大きな進化であった。

何故なら、このビジネスには再現性があると思ったからだ。
このビジネスを知った人は例外なくみんな月収100万を超えている。
しかも大学生で。
いけるいける僕にもできるできないわけがない！
なかば強制的な思い込みで作業を続けた。
有料商材もバンバン買ったし、セミナーにも初めて参加した。

すると数ヶ月で結果が出始めた。
6月から始めて8月には月10万を超えた。
次第に売り上げはぐんぐん伸びていき年末には月収100万を超えた。

半年で月100万に到達した。
仕事をしながら、
クソみたいな飲み会に強制参加させながら、
帰ってきては子供と公園に行き、
土日には家族でお出かけを欠かさずにでも、
ここまで来れた。

そらそうや。
お金を惜しみなく投資して（100万円位）正しい方法を学び、
正しい努力をしてきたからの結果であった。
昔受験勉強に失敗した時にはこの考えがなかった。
いくら努力しても、それが間違った努力であれば身を結ばない。

やばいいいい、ほんまにこんな世界あるんや。

お金は忍耐で稼ぐんやない、知識で稼ぐんや！

翌年僕は5000万円のマンションを融資を受けて購入した。
これで不動産収入が50万円、ネット収入が100万円（毎月増えていって警察辞める頃には300万円）、仕事を辞めるには十分すぎる収入であった。

ネットが駄目になっても不動産がある。
不動産が駄目になってもネットがある。
蝉が鳴き始める頃、僕は仕事を辞めた。

今までの人生で最高の日は、公務員試験に受かった日でもなく、
月収100万を超えた日ではなく、
もう職場に行かなくていいことが決定した退職日だ。

だって仕事してる人なら想像してみたらわかると思う。

1. 公務員は実は安定してないし意外と給料少ないということからの精神的経済的解放
2. 公務員なら、クソ民からの理不尽な文句からの解放（これでストレス溜まって自殺する人めちやいましたわ職場に。カオスすぎる。わかる方も多いかと。）
3. 公務員ということで、民に心無い罵詈雑言を浴びせられることからの解放（お前らは税金泥棒や、仕事もしてない等の心無い言葉の数々）
4. 無能なデブの上司に頭を下げなくて良いことからの解放
5. 無能なアホの上司に頭を下げなくて良いことからの解放
6. 無能な年下の上司に頭を下げなくて良いことからの解放
7. つまり内にも外にも渡る世間はクソばかりからの解放
8. 無能な口臭い人が横にいる満員電車に乗らなくていいという解放
9. 朝早起きならの解放
10. 月から金までの奴隷からの解放
11. サービス残業、いやボランティアをしなくていい解放
12. 無生産な飲み会に行かなくていいことからの解放
13. 無力なやる気のない奴らとの仕事からの解放
14. いくら頑張っても給料が上がらないシステムからの解放
15. 頑張る奴だけが損をすることからの解放
16. サボっても頑張っても給料一緒からの解放
17. 奴隷スーツからの解放
18. 無生産で無駄で無意味な数々の報告書からの解放
19. 効率化をしない10年前のシステムからの解放（未だに公務の仕事はほとんど手書きだぜ。今の時代に。ホリエモンがきたら、原始時代かと言われるレベル）
20. 全て有給消化できないことからの解放
21. 仕事に裁量権がなく、命令された仕事のみをする機械の日々

公務員であったこともあり、公務員特有な箇所もあるが、共感できる部分は多いと思う。
まだまだ1億個はあるが代表的な例をあげても3秒でこのくらい出てきた。

特に自分の仕事に裁量権がないというのは、こんなにストレスになるのかということとその状況に置かれたことによって知った。

つまり、自分でPDCAサイクルができない。

例えば、こうすればもっと効率的に仕事が進むのになと思う、上司に言う、今のままだも十分回っているから大丈夫と言われる。現場の原始的なシステムのまま、仕事が遅くなるのでストレスが溜まる、辞めたくなる、発狂して自殺。

これは極論だが、こんな風に自分が思っていることが一瞬で否定されて、試せないのは本当にストレスが溜まる。成長を感じることができない。

人間は成長を感じることで充実感や喜びを感じる生き物だ。

もう、公務の仕事は、ドーパミンを絶対出さないようにしている。

しないさせない持たせない。

現状維持で長時間働くやつが一番仕事のできるやつ。

これには超シンプルな理由が一つあった。

上司がめんどくさいだけ。

本当の本当にこれだけの理由である。

だってやってもやらなくても給料一緒やもん。

じゃあめんどくさいことはしたくないハゲーといったところである。

日々成長を感じられない日々を過ごした僕にとって、日々成長を感じられるこのネットビジネスの世界に入ったことは、精神衛生上本当によかった。

こんなに日々、やりがいを感じられて、思ったことを実践し、検証して修正するといった流れを一人でできることはそうそうない。

これ、さいっこーにたのしいし、世界で一番やりがいのあることだと思う。

なぜならこれはビジネスだけでなく、何にでも当てはめることができるからだ。

例えばスポーツ、実践検証修正の雨あられだろうし、自分が思っているようになったときの達成感は半端ないと、スポーツ経験者ならわかると思う。

また公務員でない社畜の仕事でもそういうことは少ないと思うがミジンコくらいはあるのではないだろうか。

受験勉強だってそうだ。

目標を決めてそれを達成することは、人間に与えられた最高の幸せを感じることができる脳にインプットされているDNA的なものだと思う。

話を戻そう。

僕の同胞の職場での会話は金かギャンブルか女か酒か愚痴といった低能な会話のみ。
殆どが金のことを絡めた考えになる。

仕事辞めたいな一金がない！（辞められない）
なんやねんあの上司むかつくわ金がない！（従わねばならぬ）
住宅ローン厳しいな金がない！（贅沢は敵だ）
飲みに行くか一駄目だ金がない！（予算は2000円）
妻に高い誕生日プレゼントを、おっと失礼金がない！（安めのちゃっちゃいイヤリングで）
子供にがつつりクリスマスプレゼントを、ところがどっこい金がない！（リサイクルショップに行こう）
よっし、今年は海外旅行に、あかん金がない！（近場の民宿に素泊まり一泊2日よ）

毎日決まった時間職場にいき、
奴隷の制服に着替えて、奴隷のシンボルであるネクタイという名の首輪を結び、
奴隷の証明である警察手帳を身につける。
さあ、気持ちいい奴隷の1日の始まりだ。
よし、今日も元気よく搾取されるぞ！

これを60歳まで永遠に続ける。
奴隷と言わずして他に適切な言葉があるだろうか？
あった。
国家の犬だ。

僕が警察官をしていた時、全ての同僚、先輩、後輩、上司は
「お金」で悩んでいた
実際、ギャンブルで借金をして破産して辞めた人を何人も見てきた。
ストレスからギャンブルと酒に走る人がクソ多い。

もっとひどい場合は、犯罪に走る。
窃盗、痴漢、強制わいせつなど、信じられないが殺人もあった。
みんな警察官。

もう自分がどれだけ一生懸命働いていても、同胞がそんなことをすると、仕事をしていると民に、「お前ら犯罪ばっか起こしてるのに、犯罪取り締まれる立場なんか」と心無い言葉を何度浴びせられたか。

一番悔しいのは、真面目にやっている僕たちだった。真面目にやってなかったけど。

懐かしいな—もうあんな理不尽なこと二度と言われる立場やないんやな。

今もきっと警察官はケチョンケチョンに罵詈雑言を浴びせられているんだろう。
そういう仕事だから仕方ない。

嫌なら抜け出せ。

そんな職場しか選べない自分の今までの行動を悔しがれ
そして、そこから抜け出すために必死こいて這い上がれ
援助はするぜ。相談に乗るぜ。今しんどい人はメールくれいい。
きっと力になれます。

僕は警察官を辞めて起業して良いことが100兆個あった。
それは前記で記した警察官の嫌なところが全てなくなったことだ。
その中ですげえ身を以って感じたことを紹介する。

一番嬉しかったことは、自分が一番嫌なことである
無能だと思える人に頭を下げなくて良くなったこと。

僕にとってはもうこれだけで起業する価値はあった。
これだけでもうお腹パンパン大満足だ。
まあ、それ以外でも

家族との時間が増えた
平日にガラガラの時に旅行
シーズンを外して旅行
いつでもどこでも仕事できる
てか仕事しなくてもお金入ってくる
自分の趣味に没頭できまくる
値札を見ないで買い物
好きなものを食べに行く
妻に最高のプレゼントをあげれる
子供に最高のクリスマスプレゼントをあげれる
仕事にやりがいがある
健康になる
家が心置きなく買える
僕はいらなかったのですが妻の夢でもあったので1億の家も買っちゃった。
家族の幸せは僕の幸せ。にしても大阪で1億はいくらなんでもたっけえよ！
払っちゃえるけども！

まだまだあるけど代表的なものはこれくらい。
しかし、今の現状に満足することなく、さらに上を
目指していきたい。

現状を変えるためにすることはただ一つ
行動するだけであるという周知の事実を徹底するだけだ

こんなクソみたいな中途半端ばかりの痛い人生を送ってきた僕でも

これから月収100万円を切ることはもう一生ないだろう。

僕の破天荒な挑戦はまだ続く。

次はお尻丸出しで
日本一周でもしてみようか。
もちろんレインボー侍で。

駄目だ元同胞のように捕まって終わりだな。

おしまい。

読んでくれておおきに！
ちなみにおおきになんて関西弁、誰も使わない。

いつでも感想お待ちしております。
自由な生活、公務員（会社員）を辞めることに興味のある方はぜひ。

このレポートを読んで自由な生活に興味をもってくれて、かつ目指してくれたら
とても嬉しいです。

仕事なんて辞めちまえ
俺がやり方教えてやるよ！

ありがとうございました！
おおきに！

※
どの時間にどの勉強をするか
言葉はけしごむでけせない
公務員を辞めるために公務員になった
公務員を目指す人はバカだっちは気付いてる？

公務員は安定していない？元公務員が語る本当の話
公務員の仕事は糞国家の歯車の一つに過ぎない
公務員に保証なんてない。そんなの幻想だぜ。